

沖縄のフロラを二分する境界線（五）

| | |
|-------|---|
| 著者 | 正宗 巖敬 |
| 著者別表示 | MASAMUNE G. |
| 雑誌名 | 北陸の植物 = The Hokuriku journal of botany |
| 巻 | 6 |
| 号 | 3 |
| ページ | 89-89 |
| 発行年 | 1957-07-15 |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/00065485 |



正宗巖敬 沖繩のフロラを二分する境界線 (五) G. Masamune : The Line of Demarcation which Divides the Flora of Okinawa in Two Regions (V)

ホコザキシダ (*Dryomensis polymorpha* Nak. var. *pentaphylla* Nak.) 私の Enumeratio Tracheophytarum Ryukyu Insularum III. (Science Reports of Kanazawa University Vol. II. No. 1) p. 96 に出ている学名には、非常なミスプリントがあります。ここにあげたような綴字が正しいのですから訂正します。このホコザキシダも此の線の北に分布しない種と考えられる。

ミツデヘラシダ (*Microsorium pteropus* Ching.) 西表及び石垣島の溪流に添った湿地に生ずる。恐らくこの境界線より北には分布しないでしょう。

リウキウマキ (*Podocarpus macrophyllus* D. Don. var. *liukiensis* Warb.) 沖繩では、イヌマキもリウキウマキも共にチャギと言っており、重要材のとれる木とされている。リウキウマキの方は、この線の北には分布しないようだ。

イリオモテキンボウゲ (*Ranunculus iriomotensis* Masam., in Tr. Nat. Hist. Soc. Formos. XXIX. p. 62 (1939) この種は、私の Enumeratio Tracheophytarum Ryukyu Insularum. IV. p. 99 (41) にはいるべきであつたのが、おちていたので、ここにその事を訂正追加する。本種は西表島の常緑樹林下の湿地に生ず。花は基本種より小さい。この分布線より北に見出されない。

ホウライツツラフチ (*Pericampylus formosanus* Diels) 台湾より、宮古島まで分布するが、それより北には見出されていないようだ。

テングノハナ (*Hernandia luzonensis* Mers.) フィリッピンから、八重山群島まで分布する。恐らくこの分布境界をこえない種であろう。

ヤエヤマヒメウツギ (*Deutzia yaeyamensis* Ohwi) 石垣島より西表に亘り分布する。

シロツブ (*Caesalpinia crista* Linn.) 石垣島、西表島、その他の八重山群島に多いが、沖繩本島以北では見なかつた。

コホソバタヌキマメ (*Crotalaria linifolia* Linn. f. form. *pygmaea* (Yamamoto) st. nov. = *Crotalaria linifolia* var. *pygmaea* Yamamoto, in J. Trop. Agr. IV. p. 307 (1932) ; Masam., in Sc. Rep. Kanaz. Univ. III. 1 p. 123 (1955). (Typ. in Herb. Nat. Taiwan Univ.) 石垣島と西表島に見出された。まだ、それより北には見出されていないようだ。

投 稿 規 定

植物地理学、群落学などに関する論文、抄録、学界消息等で特に独創的なものを歓迎する。また広く学界を対象としているので北陸という地域にこだわらない。

原稿は本誌4頁より長くならないこと、日本文は勿論であるが、それ以外のどこの国の言語で書いてもよいが、外国文の場合は日本語、日本文の場合は英、独、仏文のいずれかで要約したものを必ずつけてもらいたい。原稿締切日は、12月、3月、6月、9月の各15日とする。ただし登載の順序および、可否は編纂者が定める。図版代は投稿者の負担とする。また4頁以上の長いものを出したい時には、その組版代を負担されれば、出すことができる。何れにしても投稿は会員に限る。